療育ＤＶＤ目録

記号番号	タ　イ　ト　ル	内　　容	時　間
Ｄ－１	自閉症の子どもたち バリアフリーを目指して	発達障害の早期発見と早期からの発達支援の現場にいる人々を想定して、少しでも自閉症の理解をしてもらおうと作られたものです。（日本自閉症協会発行）	３０分
Ｄ－２	なぜ伝わらないのか、どうしたら伝わるか	＜主な内容＞ 1. 主な「発達障害」についての解説 2. コミュニケーションが成り立つ要件 3. 対話をする際の配慮すべき点と工夫のポイント 4. 家庭での生活と良いコミュニケーションをとるための工夫例	３２分
Ｄ－３	子どもが伸びる関わりことば２６　第１巻	「関わりのことば」とは、子どもの発達にとって大切な意味を持つ一群のことばであり、人やものの見方、自分自身とのつきあい方を教えてくれることばです。 それが使われる場面ごとに、子どもへの対応の仕方・習得することによる発達への効果についても解説されています。	３０分
Ｄ－４	子どもが伸びる関わりことば２６　第２巻		３０分
Ｄ－５	からだづくり、うごきづくり 【幼児・学童低学年編】	動きの基本となる筋力やバランスを保つ力などを中心に、その具体的な方法を紹介します。 また、運動を通しての動きを身につけるだけでなく、子どもとの関わりを深めていくことも目標にします。	２５分
Ｄ－６	からだづくり、うごきづくり 【学童高学年・中学生編】	子どもから大人へと体が変わっていき、体力もつき、動きがダイナミックになるこの時期の大切な課題は、人に頼らず、自分の動きを自分でコントロールするという、社会で生きていくための基本的な力をつけることにあります。 よりしっかりした筋力や持久力をつけることを目指し、それらの動きづくりを中心に紹介します。	２５分
Ｄ－７	健やかに暮らす　成人編	大人の体になった人の、体をほぐす運動を中心に、動きやすく疲れにくい体を作ることを目指します。	２６分
Ｄ－８	思いっきり支援ツール	障害のある子は目に見えないことを考えたり、推測したりすることが苦手です。 約束を結ぶこと、ルールを守ること、計画を立てること、相手の気持ちを察することなど、これらの目に見えないことや目に見えないものを、支援ツールを使って「見えるようにする」「分かるようにする」「考えやすくする」などの支援の仕方を、このＤＶＤでは紹介します	５０分

Ｄ－９	発達障害の理解と支援 ～わかり合うって素敵だね！～	さまざまな障害の総称である「発達障害」という概念を、その歴史的経緯をふまえて、わかりやすく簡潔に解説します。また、療育の考え方や支援の要点を中心に、実際の療育現場を紹介しつつ、専門家による説明、現場担当者の話、保護者へのインタビューを交えて解説します。	６４分
Ｄ－１０	ちゃんと人とつきあいたい！　子ども期	人間関係や社会的行動につまづきのある人が、人とうまく付き合うにはどのようにしたら良いでしょうか？躓きの原因を探りながら、日常よく見かける事例を中心に、社会的スキルを獲得するための具体的な方法を解説・紹介します。	２７分
Ｄ－１１	ちゃんと人とつきあいたい！　青年・成人期		２３分
Ｄ－１２	LD、AD/HD、高機能自閉症、アスペルガー症候群のある子どもたちの認知機能(1)	認知神経心理学の研究領域から、認知機能に関する検査、下位検査項目の構成背景や脳の情報処理過程との関係などについて、最新の研究成果等も交えながら基本的な理解を深めていきます。	１３０分
Ｄ－１３	LD、AD/HD、高機能自閉症、アスペルガー症候群のある子どもたちの認知機能(2)	同時処理と継次処理、注意の解説をはじめ、現在、認知心理学などでの領域で話題となっているプランニング機能、新しい認知機能の評価手段であるDN-RSについてのDVDです。また、PASS理論に基づいた実際の発達障害のあるこどもたちへの支援、指導の方策についてももりこんであります。	１５０分
Ｄ－１４	豊かな生活を実現する教育的支援 ～発達障害のある子どもたちのWANTSを高め・応える支援～	発達障害のある子どもたちに必要な支援について、本人が主体的に生活をコントロールすることの大切さ、そのための支援内容、アセスメント、教育者側が将来もとめられる方略について具体的事例を通して解説します。	１６０分
Ｄ－１５	LD、AD/HD、高機能自閉症、アスペルガー症候群を理解する、二次的な問題への対応、地域の連携について	LD、AD/HD、高機能自閉症、アスペルガー症候群について基本的事項から二次的問題まで網羅されています。前半は、脳科学のトピック、子どもの発達、軽度発達障害の概要と各論について。後半は二次的障害について概観し、その背景、学校現場や家庭生活における対応、親の心情、本人への告知について具体的事例を交えながら解説されています。発達障害のある子どもたちに関わるすべての人の連携のありかた、子どもたちに関わる際の大切な心構えなど特別支援教育に携わる専門家必見の内容です。	３３０分
Ｄ－１６	発達診断の実際　第４巻 ２歳児	「１歳児編」で登場した同じお子さんの、２歳１か月と２歳８か月との間の変化を見ます。それによって、１次元可逆操作が密度高く充実していくことによって発達的には２次元を形成していく過程を、２歳児初期ではその萌芽を、２歳なかばを過ぎたところでは２次元形成が確かになっていく様子を学び、２歳児における発達診断のポイントを押さえます。	４５分

Ｄ－１７	あそびの中にみる２歳児 発達診断の実際（姉妹編）	ここで見る２歳児のあそびが１才の、特に後半におけるあそびと比較したときに、どのような特徴的な変化をし、さらに新たな可能性を持ってきているかがわかるようにしました。 　これらをとおして、２歳児の場合、１才なかばの課題場面やあそびの場面において見た「場における方向転換（１次元可逆操作）」を獲得していくことによって、ただの遊びがさらに相手の気持ちや言っていること、していることがわかり始めて、力強く、面白く変化し、周囲の影響を内面に繰り込んでゆき、より自在に変わっていくことを示します。	３０分
Ｄ－１８	見て学ぶ　田中ビネー知能検査Ｖ	田中ビネー知能検査とは 田中ビネー知能検査Ｖの概要―開始から活用まで― 実施場面	１１０分
Ｄ－１９	発達障害へのアプローチ 第１巻　解説編 ～代表的な発達障害及び基本的な対応～	学校には何か気になる子、少しだけ様子が違う子など、常に注意を向けていなくてはならない子どもがいます。医師による診断がつかず、境界線上にいる子どももいます。そういった発達障害を疑う子発達障害のある子に対して支援者はどのように対応したらよいのでしょうか？このDVDでは、映像ならではの子どもたちの生の姿と臨場感で、発達障害の全体像の理解を促すとともに、障害の特徴と指導法を解説します。	４５分
Ｄ－２０	発達障害へのアプローチ 第２巻　実践編 ～発達障害のある子が示しやすい１０の特徴と指導法～		４３分
Ｄ－２１	発達につまずきがある子どもの子育て ～療育の実際～	子どもは沢山の可能性を持って生まれてきます。発達につまずきがある子ども達も、それは同じです。あれができない、これができないと思うことも多くあると思います。でも出来ないことを見るのではなく、今この子は何ができるのか？という見方をしてみましょう。何か月か前を振り返ってみればその時から今日までの間に子ども達がわかってきたことや身につけたことが見つかるはずです。子ども達は必ず学ぶ力を持っています。特に年齢の小さいうちは変化も大きいものです。できることを探して、そこから次の課題をみつけていきましょう。	４３分
Ｄ－２２	発達につまずきがある子どもの社会生活力を育てる ～支援の実際～	発達に障害のある子ども達には、出来ないことがいっぱいあるように思えるかもしれません。でも子ども達にはまだまだ未熟な存在です。どんなことでも、学んでいく可能性を持っています。特に身辺自立では身の回りのことくらいは自分で出来るようになってほしいと思いますが大人にどう教えたらいいのかわからなかったりします。このDVDでは、そうした食事、着脱、排泄などの基本的な内容から手伝いや社会生活を送る上で必要な力まで身辺自立を広くとらえて紹介していきます。	３９分

Ｄ－２３	ことばを育てる ～語りかけ育児～	ことばの十分使えない赤ちゃんでも、気持ちはきちんと表現しています。例えばおもちゃを何回も渡すのは、モノと同時に気持ちも渡しているからです。また、目をきちんと合わすことで赤ちゃんは気持ちを伝える努力をします。そうした赤ちゃんのしぐさやちょっとした表情の変化に応えることで、赤ちゃんの気持ちは前向きになり、もっと伝えよう、もっと関わろうとします。このDVDでは赤ちゃんのそうしたひとつひとつの行為にどのような意味があるのか、どのような思いが込められているのか、それに対してどう応えたらよいのかなど、ことばがまだうまく出てこない赤ちゃんとお母さんの実際のやりとりをみながら、言語聴覚士が具体的に解説します。	６５分
Ｄ－２４	乳幼児の心理発達・その不思議	赤ちゃんは好奇心のかたまりです。見て、聞いて、触って、試行錯誤を繰り返して、頭の中で外の世界を認識する仕組みを作っています。「認知」機能を発達させながら、自分という存在を知り、自分以外の人やモノの存在を知っていきます。それは、赤ちゃんが生まれつき持つ能力を次第に開花させ、さまざまなものと触れ合うことで、発達のスピードを速めていく過程だと言えます。このDVDでは、０歳児から３歳児までの乳幼児の動きやしぐさなど「認知」「社会性」「言語」の３つのカテゴリーに分けて、その発達過程にアプローチします。	７２分
Ｄ－２５	発達障害と虐待　第１巻 気づきとその理解のために	とある小学校。 ４ 年生担任の教師には、ちょっと気になる男の子がいる。授業中に別のことをやったり、隣の生徒にちょっかいを出したり、休み時間には一人で遊ぶことも多く、他の生徒との会話も少ない。発達障害の疑いがあるようにも思う。そんなある日、腕にあざがあるのを見つける。「まさか、虐待？」担任教師は養護教諭や特別支援教育コーディネーターに相談。その子に対しての対応、発達障害と虐待をどう理解したらよいのか考えていくことになる・・・ ポイントは・・・ ① 子どもの問題行動の背後にある発達障害や虐待への気づき ② 発達障害と虐待の違いや分かりにくさ、見分けることの困難さ ③ 発達障害と虐待のそれぞれの要因（親子関係や生活環境など） ④ 支援の枠組み	３５分
Ｄ－２６	発達障害と虐待　第２巻 適切な対応のために		４５分

Ｄ－２７	あそびの中にみる１歳児 発達診断の実際（姉妹編）	この「あそびの中にみる１歳児」では、「ビデオ発達診断の実際　１歳児」の場合と同じく、同じ子どもさんの１歳１か月、１歳７か月、１歳１０か月になった時のあそびをとりあげます。これを通して、１歳児の場合に、課題場面の１歳７か月においてみた「場における方向転換（１次元可逆操作）」を獲得していくことによって、あそびも力強く、面白く変化し、周囲の影響の効果も変わってくることをみていただきたいと思います。	３０分
Ｄ－２８	あそびの中にみる３歳児 発達診断の実際（姉妹編）	この「あそびの中にみる３歳児」では、２歳までに登場した同じお子さんの３歳１ヶ月、３歳７ヶ月、３歳10ヶ月の時のあそび場面の一端を見ていただくことによって、３歳初期における２次元可逆操作の獲得前と、その半年後、２次元可逆操作の獲得期の３歳中期と、獲得が進行し始めた３ヶ月後の３歳後期の３期における発達的変化を見ていただきたいと思います。	３０分
Ｄ－２９	あそびの中にみる４歳児 発達診断の実際（姉妹編）	このビデオでは、３歳までに登場した同じお子さんの４歳１ヶ月と４歳１１ヶ月の時のあそび場面の一端をビデオ「発達診断の実際　４歳児」とあわせてみていただくことにより、４歳初期における２次元可逆操作の獲得期と、獲得が進行し、２次元可逆操作の主人公となって立ち働く１０ヵ月後の４歳後期との２期における発達的変化をみていただけるようにしました。	３０分
Ｄ－３０	発達診断の実際　第３巻 １歳児	１次元形成期、１次元可逆操作期とその後のⅠ次元形成期の特徴が直立二足歩行獲得後の体全体の運動レベル、手による物の操作レベル、ことばの使用レベルでわかるようにしました。	４６分
Ｄ－３１	発達診断の実際　第５巻 ３歳児	「あそびの中にみる３歳児」と共に、これまで協力して下さった子どもさんたちの３歳１ヶ月と３歳１０ヶ月の間の変化を見ます。それによって、２次元形成後期から２次元可逆操作の獲得を始めていくようすを、同じ時の課題場面とあそび場面の両方から学び、３歳児の発達診断のポイントを押さえます。	４５分
Ｄ－３２	発達診断の実際　第６巻 ４歳児	２次元可逆操作の獲得が始まったところの３歳後半をうけて、その可逆操作の獲得進行に伴い、どのような発達の姿が示されてくるのかをみていきます。	４５分
Ｄ－３３	あそびの中にみる５歳児 発達診断の実際（姉妹編）	５歳になると、あそびを通してルールを伴う人間関係を織り出し、「うち」の世界から「そと」の世界と結合し、「自己」を形成していきます。そのようなすがたをあそびの中で確認していきます。	３０分

Ｄ－３４	あそびの中にみる６歳児 発達診断の実際（姉妹編）	通常３歳後半から４歳前半にかけて獲得される２次元可逆操作を柔軟に発揮させて自制心をそなえて、通常発達的な３次元世界を形成し、それを前提に５歳後半になると生後第３の新しい発達の力が発生し始めます。 　６歳には生後第３の新しい発達の力の発生が中期を迎えます。	３０分
Ｄ－３５	発達診断の実際　第７巻 ５歳児	２次元可逆操作を系列的に、内面的に展開させながら発達的な３次元を形成していくようすをみていきます。 　さらにその３次元の形成をすすめながら、新しい交流の手段としての読み、書き、数のことばを獲得し始める姿について考えていきます。	４５分
Ｄ－３６	発達診断の実際　第８巻 ６歳児	このビデオでは、保育所での６歳児として生活から、小学校入学後に一学期を終えるまでに「理を身に付けていく」過程をみて、考えていきます。	４５分
Ｄ－３７	赤ちゃんが泣きやまない 泣きへの理解と対処のために	赤ちゃんの泣きの特徴を知る 赤ちゃんは泣くのが仕事 揺さぶりのメカニズムを知る 揺さぶりによる乳幼児への影響 赤ちゃんの泣きへの対処法 赤ちゃんがどうしても泣きやまないとき 決して赤ちゃんを激しく揺さぶらないで	１１分
Ｄ－３８ Ｈ２７	３歳児からの心理発達	３歳から就学前くらいまでの幼児の心理発達について見ていきます。この年齢は様々な認識がはっきりし出す時期であり、自分と他者との関係や認知の仕方や表現など、その発達過程はめまぐるしく急速に成長していきます。ここでは、確立された既知に事実をもとに、最新の新しい知見を加えて、４つの領域に分けて紹介します。「認知」「概念・思考」「言語」「社会性」、それぞれの中で課題を設定し、子どもたちの言葉や行動から見えてくる発達心理の状態を具体的に解説します。	６０分
Ｄ－３９ Ｈ２７	発達障害の臨床　１ 発達障害の概念／理論	発達障害の歴史的経緯、医学的な発達の定義を学びそれぞれの特性（主として精神遅滞、ADHD、自閉症スペクトラム、学習障害、発達性協調運動障害）の解説、概論を中心に学びます。視聴のポイントとしては、それぞれの障害が単独のものではなく重なり合い、脳機能の障害そのものがその人の生きづらさに直結するのではなく、生活のしづらさに現れるという点を理解することです。また乳幼児期に不適切な養育により見られる虐待や思春期以降に見られる二次障害についても知ることも目的としています。	４３分

Ｄ－４０ Ｈ２７	発達障害の臨床　２ 医療ができる支援の実際	親を支えることが子どもの育ちを支える。これが第２巻のテーマです。どんな障害であれ親はわが子の問題を自分の問題として受け止め、自責感でいっぱいです。医療者や支援者は発達障害そのものの改善を行うことよりも、その人の生きづらさを生み出す環境を改善することの方に、より多く目や心を向けるべきです。当事者よりも周囲の人たちの方がより大きな努力をする必要があるのです。また本人への障害告知の問題も療育に関わる者にとっても大きな問題です。いつどの時期にどのようなタイミングで伝えるかですが、その際には優れている機能についても、しっかり説明することが大切です。また告知を受けた当事者の方にもお話しを聞いています。合わせて良い子育てを行うペアレントトレーニングについての解説もしています。	51 分
Ｄ－４１ Ｈ２７	発達障害の臨床　３ 多職種連携とその進め方	多職種連携について触れます。発達障害は一生涯のサポートが必要な障害です。人生のいろいろな時期に関わる人も異なります。しかしながら関わり方や手法は異なってもその人への対応は一貫した視点を持つ必要があります。関係者が互いの専門性を発揮しながらよりよい療育や支援が進むにはどうしたらよいか解説しています。具体的な映像として長野県、横浜市での事例をご覧ください。それぞれの巡回相談、関係者会議、また親と子を支える活動など関係者が知っておく必要がある場面も紹介しています。	54 分
Ｄ－４２ Ｈ２８	合理的配慮　第１巻 合理的配慮とは	発達障害や知的障害の人が自立した生活を送るための支援にとって必要なのが「合理的配慮」です。「合理的配慮」とは平成 28 年 4 月に施行された「障害者差別解消法」に明記されています。具体的には、合理的配慮に必要な環境の整備、人の確保、個別指導の配慮行うことであります。第 1 巻では、概念的な理解を促すために講座形式で合理的配慮を考えます。	32 分
Ｄ－４３ Ｈ２８	合理的配慮　第２巻 合理的配慮の実際	第 2 巻では、実際の子どもたちへの合理的な配慮の個別指導を 17 のケースで紹介します。	34 分
Ｄ－４４ Ｈ２８	障害児の早期発見とスクリーニングアセスメント	障害のある子どもや疑いのある子どもには、早期から発達段階に応じた一貫した支援を行うことが重要であり、早期発見と早期支援の対応の必要性は極めて高い。早期発見の場面としてある、家庭、保健センター等の健診、保育園、病院、療育施設などでの「気づき」に始まる支援の在り方を、「早期発見」「スクリーニング」「アセスメント」の側面から見ています。	19 分

D－45	育ち合う保育	ポーテージ早期保育教育プログラム　チェックリストに沿った発達の確認をし、発達水準の異なる一人一人の子どものニーズに対応しながら、グループで共通の目標を持った多層水準指導をすることの紹介	35 分
D－46 H28	子どもの発達と支援 運動機能の発達	運動機能の発達の概要と、観察のポイントをわかりやすく解説します。 また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。	21 分
D－47 H28	子どもの発達と支援 情動の発達	情動の発達の概念と、観察のポイントをわかりやすく解説します。 また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。	20 分
D－48 H28	子どもの発達と支援 社会性の発達	社会性の発達の概念と、観察のポイントをわかりやすく解説します。 また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。	21 分
D－49 H29	子どもの発達と支援 ことばの発達	新生児期から６歳児までのことばの発達を、言語理解と発語という２つの側面から見ていきます。またマザーリーズといわれる特有の話し方について見ていきます。 乳幼児期からのことばがけ、絵本の読み聞かせの重要性や注意点、また乱暴な言葉使いへの対処などを見ていきます。	21 分
D－50 H29	子どもの発達と支援 認知・思考の発達	ピアジェによる思考について解説し、発達段階のうち感覚運動期、前操作期、の認知・思考の発達を見ていきます。 「注意力が続かない」「見立て遊びができない」等に対する支援方法や、子どもの質問期への対処法などを見ていきます。	22 分
D－51 H29	赤ちゃんの一年 姿勢と運動の発達　前編 （0～6か月）	赤ちゃんの気持ちが見えるよう姿勢運動発達をわかりやすく解説し、発達に応じた対応の仕方、赤ちゃんが努力する姿を見て育児が楽しくなるように工夫させています。	26 分
D－52 H29	赤ちゃんの一年 姿勢と運動の発達　後編 （7か月以降）	赤ちゃんの気持ちが見えるよう姿勢運動発達をわかりやすく解説し、発達に応じた対応の仕方、赤ちゃんが努力する姿を見て育児が楽しくなるように工夫させています。	26 分

D－53 H29	主体的な遊びで育つ 子ども	子どもたちは遊びの中で、成長し発達する糧となる体験が多く含まれている。子どもが主体的に遊び、その遊びが充実するための環境づくりや援助の在り方を考える。	75 分
D－54 H29	自閉者が語る幼少時代 第１巻	藤家さんの幼少時代 とってもつらかった・・・	30 分
D－55 H29	自閉者が語る幼少時代 第２巻	アスペルガー症候群の認知度 気づいて欲しかった・・・	30 分
D－56 H29	発達障害を“感覚”と“運動”の視点から捉える① ①	最近のこどもたちの様子とその背景	84 分
D－57 H29	発達障害を“感覚”と“運動”の視点から捉える② ②	感覚と運動の機能	58 分
D－58 H29	発達障害を“感覚”と“運動”の視点から捉える③ ③	感覚・運動機能の臨床観察法	96 分
D－59 H29	発達障害のある子どもと話すポイント 第１巻　知的障害編	発達障害のある子どもが、コミュニケーションを取る際に何に困難を感じているのか、また、それらを解決するためには、具体的にどういった対応をすればよいか、その方法を紹介する。	42 分
D－60 H30	発達障害のある子どもと話すポイント 第２巻　ＡＳＤ編	発達障害のある子どもが、コミュニケーションを取る際に何に困難を感じているのか、また、それらを解決するためには、具体的にどういった対応をすればよいか、その方法を紹介する。	49 分
D－61 H30	子どもの社会性を育てる ～保育現場に見る「保育・人間関係」～	保育現場（保育園）での子どもたちの生活の中での社会性の獲得について見ていきます。	40 分
D－62 H30	子どもの「ことば」 ～保育現場での成長・発達～	保育現場（保育園）での子どもたちの言葉のやり取り、発せられるひとつひとつの言葉にはどんな意味があるのかを紹介する。	39 分
D－63 H30	障がい児の食事支援 ～子どもの伸びる力を信じる～	子どもの食行動と食べる楽しさを引き出すための食べる機能を促す支援はどのようにしたらよいのか、を考えます。	30 分
D－64 H30	ことばとコミュニケーションの評価と指導 第 1 巻　ことばを獲得し始めた子ども	長年の療育の実績から得られた実効性のある「ことばの獲得」への道筋を詳細に紹介しています。	37 分

Ｄ－６５ Ｈ３０	ことばとコミュニケーションの評価と指導 　第２巻　相手を意識してことばを使い始めた子ども	長年の療育の実績から得られた実効性のある「ことばの獲得」への道筋を詳細に紹介しています。	４３分
Ｄ－６６ Ｒ１	「育てにくさ」を理解する～４つの要因（２４事例）からのアプローチ～	「育てにくさ」とは、子育てにかかわる者が感じる困難感のことであり、その背景として、子どもの要因、親の要因、親子関係に関する要因状況、状況や支援など完了用に関する要因などが考えられます。この４つの要因に着目し、想定される事案をドラマ仕立てにして、育てにくさの原因や対応例を示します。	